

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02792

研究課題名（和文）マネジブル・ビデオフィードバックによる新たな学校コンサルテーションモデルの開発

研究課題名（英文）Development of a new school consultation model using manageable video feedback

研究代表者

須藤 邦彦（Suto, Kunihiko）

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：70533694

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：この研究では、撮影中と撮影後にスタンプを記録する機能と映像を切り取り保存する機能を有したビデオツールを用いて新たな学校コンサルテーションモデルを開発した。複数の実践研究の結果、開発したビデオツールを用いたコンサルテーションモデルは、様々なクライアントのニーズやコンサルティの特性に対してその有効性を示すとともに、支援に關与する他の教員集団にも肯定的な影響を及ぼせる可能性を示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果は、教員の実践を観察・撮影しながら同時に編集を可能とするビデオツールの有効性を示しており、編集技術や編集時間といったこれまでのビデオフィードバックの効果を阻害していた要因を解消したコンサルテーションが展開できる可能性がある。また、映像を簡便に、かつ随時編集可能であることから、巡回相談以降の情報共有や事例検討の場面において活用することで、得られた知見の共有とブラッシュアップが容易になる。

研究成果の概要（英文）：In this study, a new school consultation model was developed using a video tool with capabilities of recording stamps during and after filming, and of cutting and saving footage. Results showed that the use of the consultation model featuring this video tool was effective in meeting a range of client needs and consultee attributes, as well as the possibility of it having a positive impact on other teacher groups involved in providing support.

研究分野：特別支援教育

キーワード：ビデオフィードバック 学校コンサルテーション ビデオツール

## 1. 研究開始当初の背景

「百聞は一見に如かず」というように、ビデオ映像のような視覚的な情報による伝達は他の方法よりも受け手の理解にとって有効である。特に、他者からの授業実践に対するフィードバックとやり取りを通して省察を繰り返すことが重視される教員にとっては、ポイントが「編集された」ビデオ映像によるフィードバックが効果的である（例えば、小柳，2016）。しかしこのような手法は、「フィードバック内容の分かりやすさ」と「伝達・共有の行いやすさ」といった効果がある一方で、編集作業に一定の技術と時間を要するなどの課題があり、ビデオフィードバックの効果を限定してしまう（杉原・米山，2015）「扱いにくさ」がある。

ところで特別支援教育の領域においては、他者からのフィードバックを通して教員の省察と実践を促す手法として、学校コンサルテーション（Erchul & Martens, 2002）がある。この手法は、子どもへの支援の有効性が認められる一方で、教員へのフィードバックに要する時間、フィードバック内容の偏りなど、その在り方について検討がなされている。しかし、上述したビデオフィードバックにおける編集手続きの課題に着目した研究は皆無である。そのため、前述した技術的・時間的課題を解消し、かつビデオフィードバックの従来効果を増強・洗練化するような、より「扱いやすい（manegeable）」ビデオツールを用いた学校コンサルテーションモデルを開発し、その効果を検討する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究申請では、撮影時に一定間隔の映像データの切り取り・保存と簡潔な文字やスタンプなどのマーキングが可能な機能（1次編集機能）と、映像再生時における映像データの切り取り間隔の修正や文字やスタンプの追加などの機能（2次編集機能）を有したツールを用い、ビデオフィードバックによる新たな学校コンサルテーションモデルを開発することとした。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響でたびたび研究参加者への実践が中断したため、期間を延長するとともにコンサルティの所属校種や経験年数などを拡大して1次編集機能の効果の検証を主として実施した。

## 3. 研究の方法

本研究は原則として、①編集機能（一次と二次）の操作性と教育現場での使用条件を整理・調整するパイロット研究、②一次編集機能についての実践現場での効果を検証する実践研究とその成果の公表、③二次編集機能についての実践現場での効果を検証する実践研究とその成果の公表からなった。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、②や③の実施が大幅に遅延（特に③は複数回中止）となったため、その後は②の効果を検証することを中心として実践を行った（③については目的から除外した）。

①については、平成30年度に、パイロット研究として、ビデオツールの操作性と使用条件について整理・調整した。具体的には、研究代表者や研究分担者とこれらについて検討する機会（複数回）と外部専門家（研究者や教員集団）と検討する機会を設けた。

②については、平成31年度から令和5年度までに、合計17名のコンサルティ（所属は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）に実践を実施した。またそのうち、4名は特別支援に関する実践経験が少ない（あるいは1年目の）教員に実施し、介入後の社会的妥当性も評価した（ただし、1名は新型コロナウイルス感染拡大の影響で評価できなかった）。

③については、平成31年度、令和2年度、特別支援学校の授業研究会や事例検討会において実施した（ただし、それ以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になったため未実施）。

またこれとは別に、令和3年度と令和5年度において、得られた知見を全国学会で公表し、その成果と課題を検討した。

## 4. 研究成果

①におけるパイロット研究では、予想されるビデオツールの操作性と使用条件について知見を得た。操作性については、主に、（1）撮影時の課題（撮影可能なアングル、ズーム操作のスムーズさ、撮影者の肉体的疲労など）、（2）一次編集時の課題（スタンプの自動集計機能の追加、文字スタンプ作成時の音声入力機能の追加など）、（3）二次編集時の課題（動画切り出し後のシークバーのジャンプ機能の厳密さ、編集メニューダイアログの移動機能の追加など）が提示された。使用条件については、主に、撮影編集時間の長さ、撮影位置、撮影対象の人数などについて意見が示された。これらを受けて、次年度以降に予定しているコンサルテーション実践に関連が深い課題からカスタマイズするポイントを抽出した。また、ビデオツールのカスタマイズではなく、例えば三脚を設けるなど、撮影環境を工夫するなどして解決する課題は、上記カスタマイズポイントから除外した。

②の一次編集機能に関する実践研究では、いずれの事例においても、クライアントの行動が適応的な観点で変容し、同時に、コンサルティの指導支援行動も適切なものへと変化した。また、コンサルティの特別支援教育の実践支援に関する知識の向上やコンサルタンのコンサルテ

ション結果の理解促進にもつながることが示唆された。さらに、支援目的、方法、効果、負担感、継続可能性といった社会的妥当性についても肯定的な結果が得られ、コンサルティの所属や特別支援教育に関する経験を越えて、一次編集機能がコンサルティとクライアントに効果を及ぼす可能性が示唆された。

③については、実施の中断をよぎなくされたため系統的なデータの収集には至らなかったが、フィードバック内容をその場でコンサルティと協議しながら監修すること、日々の授業実践の結果と課題を他教員にスムーズに共有できること、そして授業研修や教育実習生の省察においても効果が期待されることなどがエピソード的なデータではあるものの示唆された。

結果の公表においては、上述したような効果への支持とツールに関する関心を得られたとともに、映像ツールをコンサルテーション実践に用いる前提(例えば、コンサルティの抵抗感など)を緩和する方法との関連付けの在り方や、ツールを(例えば、遠隔地へのコンサルテーション実践などに)遠用する可能性について討論が行われた。

以上より、本研究で開発したビデオツールを用いたコンサルテーションモデルは、様々なクライアントのニーズやコンサルティの特性に対して、その有効性を示すとともに、支援を支える他の教員集団にも肯定的な影響を及ぼせる可能性を示唆した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 上杉瞳；須藤邦彦	4. 巻 55
2. 論文標題 簡便で即座に編集可能なビデオ・ツールを用いた特別支援学校小学部のPDD児に対する行動コンサルテーション：教室への入室をしづる行動に焦点を当てて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山口大学研究論叢	6. 最初と最後の頁 133-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 北村拓也；須藤邦彦	4. 巻 71
2. 論文標題 特別支援学校中学部在籍のASD児における心理リハビリテーションの視点を踏まえた自立活動での体づくり運動の実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山口大学教育学部研究論叢	6. 最初と最後の頁 205-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本江利子；須藤邦彦	4. 巻 71
2. 論文標題 特別支援学校高等部準ずる課程で学習する視覚障害（弱視）と発達障害を併せ有する生徒の対人スキル形成-卒業後を想定した連絡場面を対象として-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山口大学教育学部研究論叢	6. 最初と最後の頁 199-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本彩織；須藤邦彦	4. 巻 51
2. 論文標題 自閉症スペクトラムのある児童へのこだわり行動の予防・減弱と自律スキルの形成 本人の要求自発機会を活かしたスキルの獲得と維持をめざして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 127-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脇貴典・須藤邦彦	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 特別支援教育コーディネーターへの集中トレーニングによるコンサルテーションスキルの獲得と維持	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育心理学研究	6. 最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5926/jjep.68.33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田研	4. 巻 52
2. 論文標題 特別支援学校高等部において知的障害のある生徒の自己決定を高める指導に関する教員の省察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 星美学園短期大学研究論叢	6. 最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田研	4. 巻 18
2. 論文標題 知的障害特別支援学校高等部において作業学習の主体的な学びを支える授業実践 実態把握シートの記述内容の分析を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法政大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 88-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中奈々・松岡勝彦	4. 巻 68
2. 論文標題 知的能力障害のある成人における日常生活スキルの支援(1)洗濯スキルに焦点を当てて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山口大学教育学部研究論叢	6. 最初と最後の頁 211-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 太田研；須藤邦彦
2. 発表標題 マネジブル・ビデオフィードバックによる特別支援学校教員の省察特徴
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上杉瞳；須藤邦彦
2. 発表標題 即時に編集が可能なビデオ・ツールを用いた発達障害児への行動コンサルテーション 特別支援学校小学部における登校直後の片付け行動の形成
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北村拓哉・須藤邦彦
2. 発表標題 特別支援学校中学部在籍のASD児における心理リハビリテーションの視点を踏まえた自立活動での体づくり運動の実践
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田研
2. 発表標題 重度知的発達症者へのビデオセルフモニタリングの効果に影響する学習セットの検討
3. 学会等名 日本行動分析学会第37回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	松岡 勝彦  (Matsuoka Katsuhiko)  (70312808)	山口大学・教育学部・教授    (15501)	
研究 分担者	太田 研  (Ota Ken)  (10709405)	星美学園短期大学・幼児保育学科・准教授    (42632)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------